

27年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年12月1日～ 27年12月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
入荷動向	スギ	25.0	△ 5.0	0.0
	ヒノキ	6.3	△ 6.3	0.0
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	20.0	△ 5.0	△ 5.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 6.3
	カラマツ	100.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	35.0	10.0	15.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ原木の入荷は12月の増加が、28年1月は減少、2月は横ばい。カラマツは12月の横ばいから、28年1月、2月は増加。トドマツは12月、28年1月の横ばいが、2月は増加。

・スギ原木の消費は12月の増加が、28年1月、2月はやや減少。ヒノキは12月、28年1月の横ばいが、2月はやや減少。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは12月の増加が、28年1月、2月は減少。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して増加。ヒノキは12月、28年1月の横ばいが、2月は減少。カ

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
スギ	△ 5.0	△ 2.5	0.0
ヒノキ	△ 6.3	6.3	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の価格は12月、28年1月のやや弱含みが、2月は横ばい。ヒノキは12月の弱保合、28年1月の強保合が2月は横ばい。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

・カラマツは低気圧による風倒木処理が先行し、皆伐は遅れている。トドマツはシステム材が順調に入荷。消費動向は、カラマツは産業用途向けで回復しているが、業界全体では増えていない。トドマツは建築向けの新規先が始まり増加傾向。(北海道)。

・今のところ暖冬の気配、林道の状態が心配。冬季に入り挽き立て落ちる。在庫は需要で変化、今のところ製品荷動き悪い(北海道)。

・1月以降の雪の影響で入荷は減少見込み、消費総量、在庫量は変えない(近畿)。

・入荷は、12月、1月は減る見込み、消費は12月～2月はほぼ横ばい、在庫は12月は少し増やす、ただし原木の出荷状況による(中国)。

・スギ、ヒノキ共に順調に出材、冬山に移るとスギ入荷が減る見込み。比較的荷動きは順調(中国)。

・十分ではないが丸太は入る。機械トラブル続き、減産予想。十分とは言えないが丸太はある(中国)。

・入荷は天候次第、消費は原木の入荷次第では(九州)。

・12月入荷は横ばい、1月、2月は天候不順につき出材は減少。消費は残業してやや増加。在庫は入荷減少でやや減少(九州)。

・地域と相場状況にもよるが、現状、特別増減なく推移していくものと思う(九州)。

(原木価格)

- ・変わる見込みなし。バイオマスによっては高騰もあり得る（北海道）。
- ・雪で多少影響（近畿）。
- ・12月～1月は上げ（中国）。
- ・荷動きはスギ、ヒノキとも堅調だが、単価はまだ安いまま、出材が増えると丸太を安く買おうとする傾向（中国）。
- ・原木価格は変わらぬ見込み（中国）。
- ・積雪で素材入荷が減少すれば価格上昇も見込めるのでは（九州）。
- ・年内は横ばい、年明けは少し下げると思う（九州）。
- ・今月は、多少在庫の手当等で買いに走る傾向が見られた。後は製品と出材の動向次第（九州）。

27年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
生産動向	スギ	20.0	10.0	0.0
	ヒノキ	6.3	12.5	6.3
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	25.0	10.0	△ 10.0
	ヒノキ	25.0	0.0	△ 6.3
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 30.0	△ 20.0	△ 5.0
	ヒノキ	△ 35.7	△ 14.3	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は12月、28年1月の増加が、2月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して増加。カラマツは12月、28年1月の増加が、2月は横ばい。トドマツは12月の増加が、28年1月、2月は減少。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は12月、28年1月の増加ないし横ばいが、2月は減少。カラマツは12月、28年1月の増加が、2月は横ばい。トドマツは12月の増加が、28年1月、2月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。ヒノキは12月、28年1月の減少が、2月は増加。カ

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 5.6	0.0
	柱角 KD12×3	△ 5.0	△ 15.0	△ 10.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	5.6	5.6	5.6
	母屋角	10.0	5.0	0.0
	タルキ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	間柱	20.0	0.0	0.0
	ヌキ	6.3	△ 6.3	△ 6.3
	平割	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	ラミナ	0.0	△ 16.7	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	7.1	0.0	△ 7.1
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	△ 7.1
	土台角 10.5×4	0.0	△ 8.3	△ 16.7
	土台角 12×4	0.0	△ 7.1	△ 21.4
	通し柱 12×6	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角はやや弱含みで推移。通し柱は横ばい。桁角、母屋角、間柱は強含みないし強保合。タルキ、ヌキ、平割及びラミナは12月の横ばいないしやや強保合が、28年1月、12月は弱含み。

・ヒノキ柱角は12月、28年1月の横ばいないしやや強保合が2月は弱含み。土台角及び通し柱は12月の横ばいが、28年1月、2月は弱含み。ラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板、ラミナ及びトドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・平均2時間の残業で生産している。10月から産業資材用途で回復し、11月から出荷量が増加（北海道）。
- ・冬季に向けて生産落ち、稼働日数も減少。サンギの出荷は杭打ち問題の影響があるような気配。在庫は横ばい（北海道）。
- ・生産は横ばい状況、販売好調で出荷増、在庫減（関東）。
- ・受注残含め注文は多い、在庫が減少、1月初旬納期分までは年内納品予定、生産順調で在庫がたまらない（近畿）。
- ・生産横ばい、出荷は1月は減ると予想、1月から在庫増やす（中国）。
- ・注文に応じて製材をしているとスギの割合が増えてくる。出荷はプレカット向けが順調。製材量を上回る出荷（中国）。
- ・機械トラブルが続き減産予想。今月が出荷のピークか、ピークを少し過ぎたあたかも。今月までは在庫少な目でいけそう（中国）。
- ・未だ動きは鈍いが、プレカット、着工動向により生産、出荷に多少の動きがある可能性あり（九州）。
- ・ヒノキは、残業して生産やや増加。販売は徐々に減ると思う。在庫は横ばいから増加に転じる（九州）。
- ・プレカットの仕事が11月からずっとズレ込んでいる。1月決算に向けて在庫を減らす（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは、丸太価格次第（北海道）。
- ・スギの値上げ交渉は一部不足感のあるアイテムは通るが、総じて横ばい。ヒノキは扱い量が少ないので横ばい、一部値上げも散見される（近畿）。
- ・ヒノキ、相場品は上がるかも（中国）。
- ・スギ製品は値下げ局面に入りそう、ヒノキ4m、120mm角土台、値下げしてきた（中国）。
- ・1月より2月にかけてやや下げ気味（九州）。
- ・スギ柱角は、単価を下げないと売れない。間柱は9月以降需要はあるが、単価を上げられるまでではなく、横ばいをキープ。ヌキは12月に入り需要増（九州）。

27年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の仕入れは12月の減少が、28年1月、2月は横ばい。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して横ばい。
- ・米マツ丸太の消費は12月の減少が、28年1月、2月は横ばい。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して横ばい。
- ・米マツ丸太及びニュージーランド丸太の在庫は、3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
米マツ丸太	50.0	0.0	△ 100.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の価格は12月の強含みが、28年1月の横ばいから2月は弱含み。ニュージーランド丸太は12月、28年1月の横ばいが、2月は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ丸太は、荷動き低調で需給に変化ない（中国）。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータ丸太は、1月着船丸太価格（FOB）は上昇予定（中国）。

27年12月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
生産			
米マツ製材品	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	△ 100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は12月の減少が、28年1月、2月は横ばい。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は12月の横ばいが、28年1月、2月は減少。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の生産は12月の減少が、28年1月、2月は増加。NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	50.0
NZ土木用材	0.0	0.0	50.0
その他	—	—	—

・米マツ平角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。正角は12月の弱含みが、28年1月、2月は横ばい。

・NZ梱包材及び土木用材の出荷価格は12月、28年1月の横ばいから2月は強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は、荷動き低調で需給に変化ない(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は、2月販売より製品価格の値上げ予定(中国)。